

# 令和7年度 校内研究について

研究推進委員会

## 1 研究主題

自分の考えをもち、根拠を明らかにして表現する力の育成  
～ ICT等の活用による学習の個別最適化と協働的な学びを通して～  
(1年次)

## 2 主題設定の理由

昨年度は、研究の概要を教員間で共有しながら「生徒が主体的に学ぶ・話す・活かす力の育成」をメインに研究を進めてきた。特に、電子黒板やデジタル教科書などがここ数年で一気に導入されている実態を踏まえ、「ICT 機器の活用」に力を入れてきた。研究の具体的実践として、1学期に教科で計画を立て、2学期に向けてそれぞれの教科での研究授業を行った。その結果、生活状況調査の「授業でPC、タブレットなどのICTをどの程度活用したか」の質問に対して週3回以上と回答した生徒が78.9%（前年度66,8%）と大幅に増加した。弱点を把握してその対策を行ったり、思考の流れを可視化したりしたことが生徒の理解や意欲の向上につながり、協働的に課題を解決する中でICT機器を活用していく良さを実感できたと考えられる。教員も授業力の向上という視点から、機器の活用方法を能動的に身につけようという意識をもつことができた。

一方で、2学期末生活状況調査結果によると「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」の項目が他の質問項目と比べて低い結果である。自分の考えを筋道立てて相

| 項目                                                            | 肯定的回答 |
|---------------------------------------------------------------|-------|
| 1 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。                           | 91.8% |
| 2 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。                 | 94.0% |
| 3 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。 | 78.3% |

(2学期生活状況調査より)

手に伝えること、粘り強く課題を追求し、学習を深めようとする態度に弱さがあると言える。今年度からの高校入試（特色選抜）においても自分の考えを相手にわかりやすく伝えていくことが重要になっており、相手意識をもって表現する力をつけることが今後の課題と言える。

以上のことから、今年度は探究的な学び、協働的な学びに重きを置き、自分の考えを、根拠を明らかにして聞き手にわかりやすく伝えるという点に力をいれる必要がある。昨年度の研究を踏まえ、ICT機器の活用を含めた多様な手立てをもとに課題解決ができるような授業づくりについて研究を進めていきたいと考えた。

## 3 研究の目標

本研究は、本校の教育目標である「未来に向かって主体的に生きぬく生徒の育成」の実現を目指し、生徒の主体性を育むことと教師自身の授業力向上を目標としている。その際、学習指導要領で重視している「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に立ち、各教科等における生徒の資質・能力を確実に定着させていきたいと考えている。そのためには「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくりが重要になる。その実現に向けて、本研究ではICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れ、学習活動が「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認しながら、自分の考えをもち、表現できる生徒の育成につなげていく。

### 目指す生徒の姿

- (1) 自分の学習状況を把握し、自立的、意欲的に学びに向かう生徒
- (2) 「自分」「物事」「人」に向き合い、かかわり合いの中で自分の考えや思いを表現できる生徒
- (3) 他教科や生活の中で活用できる知識を身につけ、学んだことを課題解決に活かすことのできる生徒

#### (1) 主体的・協働的に学びたくなる探究課題（単元のゴール）の設定

- ・必要感のある課題 ・生徒が自ら立てた課題 ・一人では解決できない課題（難易度）
- ・多様な考えが引き出せる課題 ・生徒の生活体験に根差した課題 など

#### (2) 思考・判断・表現する場面の設定

- ・学習の見通し（自分の力でここまでできるが）がもてる学習過程
- ・相手意識、目的意識を明確にした学習活動
- ・必要なもの（ICTを含む）や相手を選択し、協働的に解決できる学習過程

以上を意識しながら、「課題把握、対話を通した学び、振り返り」のサイクルを単元やそれぞれの時間でまわしていく授業づくりを行う。

## 5 研究の内容

### (1) 研究授業の実施

- ・研究テーマ及び、研究の視点に沿った授業を行う。
- ・教科ごとに生徒の実態を把握し、1学期に第1回授業研究会を実施する。国語部会、社会科部会、数学部会、理科部会、英語部会、技能教科部会にわかれ、各1名ずつの授業提供を行う。部会ごとに事前研、事後研を行い、研究テーマや今年度の重点を共有する。その際、外部指導者を招聘し、指導を仰ぐ。
- ・それ以外の先生方は、第1回授業研究会で出された成果や課題をもとに、2学期以降略案を書いて授業を実施し、教科の先生に見ていただく場を設定する。

### (2) 実践の共有

- ・教科で行った研究授業の成果と課題を職員会議等で報告し、教科を越えて互いの授業実践に活かせるような機会を作る。

### (3) 研究紀要の作成

- ・研究授業を含む、教科ごとの実践をまとめ、来年度へつなぐ。

## 6 研究の計画

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 4月中旬  | 今年度の研究内容の確認          |
| 5月～   | 研究テーマを踏まえた教科での計画及び実践 |
| 7月9日  | 第1回授業研究会             |
| 2学期   | 研究テーマを踏まえた教科での計画及び実践 |
| 1月～2月 | 各教科の研究まとめ、研究紀要作成     |
| 3月    | 研究紀要発行（データ）          |